

## 滴一滴

骨格標本でも、いまにも獲物を襲うかに見えるティラノサウルスやアロサウルス。頭から尾の先まで全長27メートルもある迫力満点のディプロドクス。岡山市の岡山シティミュージアムできょう開幕する「世界大恐竜展」をひと足早く歩いた▼三畳紀からジュラ紀、そして白亜紀へと、2億年近くも地球上に君臨した恐竜たちである。全身標本や化石、当時の姿をリアルに再現した生体模型など約90点が並ぶ会場はまさに圧巻だ▼中年以上には昔のイメージをがらりと変える模型もあった。豊かな羽毛をたくわえた恐竜である。1996年、中国で羽毛の痕跡がある化石が発見されて以降、恐竜から鳥類への進化が裏付けられた。残された色素から色の復元も可能になったという▼解説してくれた岡山理科大の石垣忍教授は「恒温性になった一部の恐竜が保温のために獲得したのでは」と話す。発掘や研究が進めば、さらに新たな恐竜像が生まれるかもしれない▼平成の30年、恐竜は世代を超えてより身近になった。映画「ジュラシック・パーク」が世界的に大ヒットしたのが93年。国内でも兵庫県丹波市や北海道むかわ町で発見された大型恐竜の化石がファンの話題を呼んだ▼夏休みも近づいた。生物の進化をたどる太古からの「贈り物」は格好の教材でもあろう。ひとときのタイムマシンを楽しんでは。